

資料 4

【参考資料】

社団法人 全国老人保健施設協会
配布資料

平成20年度第2回介護労働者の
確保・定着等に関する研究会
ヒアリング資料

平成20年4月25日(金)



社団法人全国老人保健施設協会

老健施設介護職の特徴

老健施設の介護職は、医師、看護師、理学療法士、作業療法士等の医療系スタッフとの連携・協働でケアサービスを提供している。よって他の福祉系サービスと比較し、利用者の心身の状態観察・管理等でより医療的な知識が必要となる。一方介護療養型医療施設と比較し、在宅生活を見据えたケアを提供し、高い家庭復帰率を上げている。

老健施設介護職は、食事・排泄・入浴・移動の介助といった基本的な介護技術に加え、医療・リハビリ・在宅支援といった広範かつ専門性の高い介護知識と技術が必要であり、そういった意味では介護の総合職といえる。

そのような理由から老健施設では介護職中の介護福祉士率が介護保険サービスの中で最も高い。

老健施設の介護職の実態

- 多様なニーズ、ケアの質を担保するために、老健施設の看護・介護職等のスタッフ数は、自主的に基準以上に手厚く配置されている。
- 介護職の半数以上が介護福祉士資格を取得しており、介護サービス事業の中で最も資格取得者が多い。
- これらの介護スタッフの年齢層は男女とも20代から30代後半が中心で、低賃金をはじめとする就労条件の悪さは、将来の夢を築けず常に苦しんでいる。
- 介護職給与の上昇は何とか維持されているが、その原資は管理職給与等からまわされている。
- 全老健は年間約30コース、延べ5000人規模の研修会を開催している。全国大会では約5000人の参加者、1000演題以上が集まっている。厳しい環境にありながら向学心、技術力の研鑽に励もうとするモチベーションは極めて高い。

以上のような経営側・現場職員の努力に対しての評価・優遇措置が全くとられていない。